

第10回 労働市場

本講義目的

- 労働賃金はどの様に決定するだろうか。
- なぜ失業が発生するのだろうか。
- 自然失業率とはどのようなものだろうか。

1. 労働市場

(1) 労働供給

労働時間を増やすと賃金をより多く貰えるようになり、財やサービスをより多く消費できるようになる。その結果、人々の効用水準は増すこととなる。しかし、労働時間を増やすと余暇に使える時間が少なくなる。それは、人々の効用水準を低下させることとなる。人々は賃金を眺めつつ、どれだけ働くかを決定する。

(2) 労働需要

生産活動を行うために企業は労働者を雇用し賃金を支払う。企業がどれだけの量の労働者を雇用するかは、労働者に幾ら賃金を支払う必要があるか、企業がどのような技術を持っているか、生産した製品を市場で幾らの価格で販売できるかにより決定する。

(3) 賃金の決定

生産物の価格を p 、労働の限界生産物（労働者をもう一人多く雇用した時に生産される追加的な生産量）を MPL とすると、労働者に支払われる賃金 w は、

$$w = p \cdot MPL$$

となる。つまり、労働者をもう一人多く雇用することにより得られる価値と労働賃金が一致する。

(4) 賃金格差

労働賃金には大きな差異が見られる。そうした差異は以下の要因で説明できることが知られている。

- | | |
|--------------|----------|
| ① 生産性賃金差額 | |
| ② 補償賃金差額 | 危険な仕事 |
| ③ 情報に基づく賃金差額 | 労働移動への影響 |

(3) 有効求人倍率

有効求人倍率とは、職業紹介所に寄せられている求人者数と求職者数の比率を示す。

$$\text{有効求人倍率} = \frac{\text{求人者数}}{\text{求職者数}}$$

データ 伊藤元重 (2002) 図 6-4 参照

(4) 失業の種類

季節的失業, 摩擦的失業, 構造的失業, 循環的失業 (景気循環)

(5) 自然失業率

① 自然失業率とは

景気の良し悪しにかかわらず、失業率は一定水準以上の比率となる。この比率を自然失業率とよぶ。政策を考える上で、失業率を自然失業率とそれ以外の部分に分けて考えることは大切である。

データ 伊藤元重 (2002) 図 6-2 参照

② 自然失業率の計算

E = 就業者数

U = 失業者数

$E + U = L$ = 労働者数

失業率 = U / L

離職率 = q (一定期間に仕事を自発的・非自発的にやめる人の割合)

離職者数 = qE

再就職率 = f (一定期間に新たに仕事を得る人の割合)

再就職者数 = fU

離職者数と再就職者数が一致する水準で自然失業率は決定する。従って、 $qE = fU$ となる。これを失業率の式に代入し、自然失業率を求めることができる。

自然失業率 = $q / (q + f)$

③ 自然失業率増加の原因

産業構造の大幅な変化，人口の高齢化，社会保障の拡充（失業保険）